

## 住民参加で実現！ホタルをテーマに商業活性化

### 福島・北会津村

#### 中小企業診断士／二瓶哲

梅雨も最中の6月下旬、無数のホタルが舞う中「ホタル祭り」は開催される。数年前までは芸能人を招いてのコンサートといったありきたりのイベントであったが、1997年、熱意ある商工会会員の「住民自らが主役にならねば地域の活性化はない」との思いから、住民参加型イベントの大改革案を打ち立てた。

しかし、村内には商店が点在しているだけで、商店街を形成していないという理由で、福島県産業振興センターの商業活性化対策事業の補助金を獲得するには困難を極めた。しかし、並々ならぬ商工会会員の熱意と情熱により、異例中の異例として補助金交付が認められた。今や、遠くは近畿圏、首都圏などから集客し、動員数2万を超える県内有数のイベントに成長している。また、地元購買率が年々伸びているなどイベントの波及効果も非常に大きなものとなっている。

イベントはホタル鑑賞の他にも物産販売など多種多様だが、なんと言ってもクライマックスは、村民自らが演じる地域民話劇、ステージの前には人があふれるばかりの人気ぶりである。イベントを通じて地域イメージアップばかりでなく、住民は地域づくりに目覚め郷土の資源の活用する方法を学び、さらに、何と言ってもホタルという「環境」を資源とした商業活性化に取り組み出したことに注目したい。今では、イベントを通じ、新たな地域特産品の開発をも次々に試みられるようになってきている。

また、従来の景品としていた現金や旅行券などを廃止し、地域内通貨であるエコマネー

方式の「ピカリン札」を当選券として贈り、地域経済の循環性の向上を図るという、地域産業活性化の新たな仕掛けづくりを行なった。

このように「ホタル祭り」においての功績は、なんといっても、地域住民の新たな挑戦意欲が数段高まり、村民の誇りと産業間の運命共同体意識が育まれてきたことであり、大きな価値を見い出すことができる。